お　知　ら　せ
平成20年8月8日
長崎海洋気象台
舞鶴海洋気象台

次世代台風予報技術の開発を目指した特別観測実験に海洋気象観測船が参加

海洋気象観測船「長風丸」および「清風丸」は、次世代台風予報技術の開発を目指して実施される「特別観測実験T-PARC2008」に参加し、日本の南海上に接近する台風を対象とした高層気象観測を8月～9月にかけて集中的に行います。

気象庁は、進路予報が難しい台風を対象として、次世代台風予報技術である「双方向予報システム」の有効性を調べる「特別観測実験 T-PARC2008」を実施しています。「双方向予報システム」とは、どこで観測すると予報精度向上に最も効果が高いかをスーパーコンピュータで推定し、その推定域で集中的に観測を行うことにより予報精度の向上を目指すものです。

長崎海洋気象台の海洋気象観測船「長風丸」および舞鶴海洋気象台の海洋気象観測船「清風丸」は、8 月～9 月に九州西方および沖縄東方海域において、高層気象観測を行います。これらの海域のデータは、日本に大きな影響を与え、防災上も大きな課題となっている、台風の進路予測精度の向上に寄与すると期待されています。

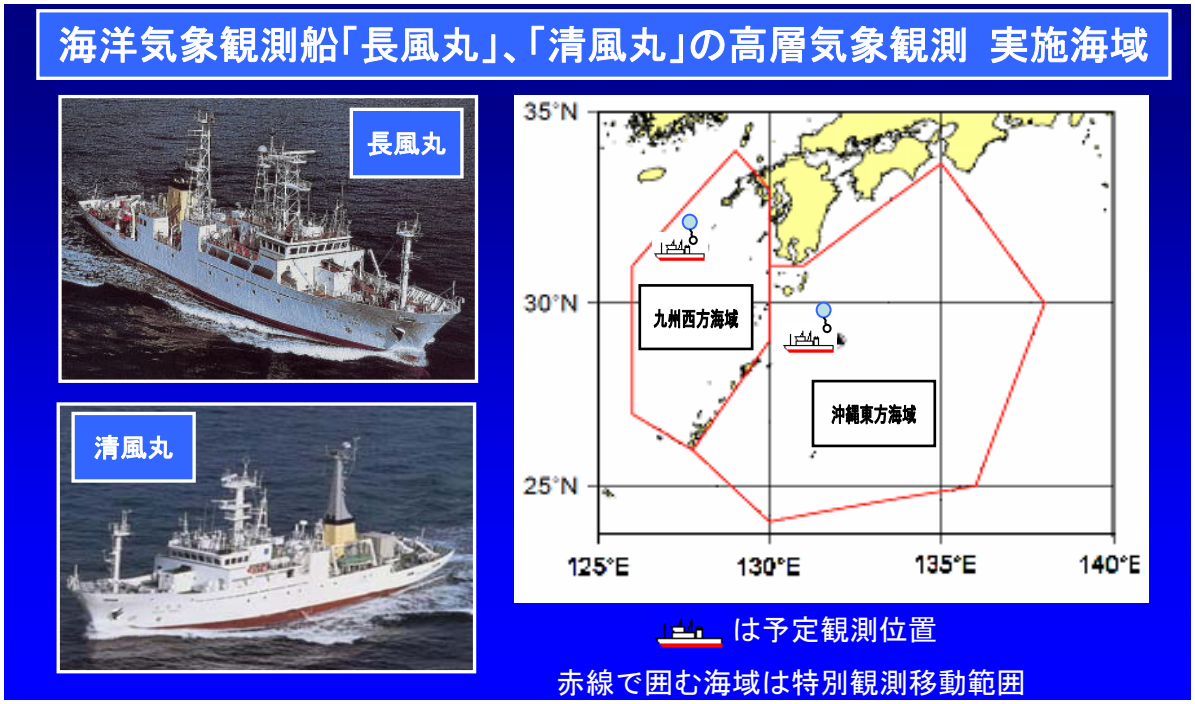
なお、「特別観測実験 T-PARC2008」の詳細については、下記アドレスの気象庁ホームページからご覧ください。

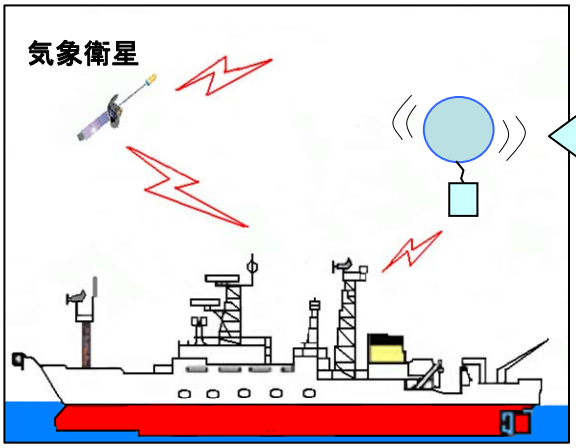
http://www.jma.go.jp/jma/press/0805/09b/20080509.html

各船の予定

「長風丸」8月15日長崎出港、9月16日長崎帰港（8月29日～9月2日鹿児島寄港）
　観測海域：九州西方海域および沖縄東方海域
「清風丸」8月29日長崎出港、9月30日舞鶴帰港（9月12日～16日長崎寄港）
　観測海域：九州西方海域

［本件に対する問い合わせ先］
長崎海洋気象台　海上気象課長　石川　直幸　(095-811-4867)
舞鶴海洋気象台　海上気象課長　川江　訓　(0773-76-4114)





観測データは、船から気象衛星「ひまわり」経由で気象庁へ通報します。

船上からの GPS ゾンデの飛揚

海洋気象観測船による高層気象観測は、観測器（GPS ゾンデ）を気球に取り付けて船上より飛揚し、海面から高度約 30km までの気圧、気温、湿度、風向風速を観測します。特別観測時には、1 日最大 8 回（3 時間ごと）の高層気象観測を実施します。